

学校再開後の感染対策

本康医院 本康宗信

静岡県立こども病院 総合診療科／小児感染症科 荘司貴代

静岡県内の公立小中学校、高等学校では、新学期を迎えてすぐに休校になりました。大学ではオンライン授業を取り入れているところが多くなっています。静岡県では、5月下旬から感染対策徹底後、多くの学校が再開されています。文部科学省からは、新型コロナウイルス感染症対策の現状を踏まえた学校教育活動に関する提言（R2.5.1）が発出され、5月13日には124頁にわたる教育活動におけるQ&Aが学校に送付されており、学校医の方の中にはご承知の方もいらっしゃると思います。

これまでの集団感染は、「換気の悪い密閉空間」「手の届く距離に人が密集」「近距離での会話・発声」の3つの条件が同時に重なった場で発生が確認されています。学校での大きいクラスターはありませんが、この3つの条件ができるだけ同時に重ならないようにすることが対策とされています。ただ学校は、この3つが容易に起こるところです。対策として、

1. 換気を励行する **（窓・ドアを開けっ放しにして！）**

可能であれば2方向の窓を同時に開け、換気を実行する。クーラーつけても換気必要、職員室や、会議室も換気必要。

2. 人の密度を下げる **（べったりしない・取っ組み合いをしない！）**

互いの距離を1～2m程度あける。対面で長いこと活動することを避ける。

3. 近い距離での会話や発声を避ける **（おしゃべりしながら食べない！）**

咳エチケットを遵守する。マスクについては、これからの季節、熱中症のリスクもあり、状況により、適宜判断が必要です。体育や運動部活でのマスクの着用は、必須とはされていません。https://www.mext.go.jp/sports/content/20200522-spt_sseisaku01-000007433-1.pdf また、2歳未満ではマスクの着用を避けるように日本小児科医会から提言が出ています。

https://www.jpa-web.org/dcms_media/other/2saimimann_20200525.pdf

インフルエンザの流行期では、バレーボール、バスケットボールなどの部活で流行が見られます。室内であること、多くの人々が触ったボールにウイルスが付着していると、それを触った手で顔を触り感染することがあります。柔道やラグビーのように接触が多いスポーツでも注意が必要です。スポーツが悪いわけでも、やっているお子様方が悪いわけでもありません。スポーツをした後には手洗いをしっかりし、何よりも体調の悪いときはこういった活動には参加しないことが第一です。休憩時や練習前後、アルコール消毒でなくて構いません。石鹸での手洗いを励行してください。

フェイスシールドは目を守るためのもので、通常の授業中に先生方がつける必要はありません。学校では、機材や道具など共有物が多く、その都度消毒はできません。使用前後に、手を洗わせることが大切です。ドアノブ・机・椅子・ロッカー、スイッチなど子供たちがよく触るところは、終業後に拭き掃除をします。

年齢によって、こういったことへの理解は難しく、特に未就学児では、先生方のご負担がかなり増えると思います。保育園においては、日本小児感染症学会から手引きが出ています (http://www.jspid.jp/news/2003_covid19_1.pdf)。年少児では、部屋の換気をして、顔をさわらないでというくらいだと思います。COVID-19 の感染は、主に飛沫、接触感染ですので、家庭では、季節性インフルエンザの流行期に行っていることをまず続けることが重要だと思います。今シーズンは、インフルエンザの流行が小規模でしたので、忘れてしまった方もあると思いますが、昨冬のシーズンでの注意点を思い出してみましょう。

インフルエンザは小児から成人に流行が拡大することが多いのですが、小児の COVID-19 では成人から感染することがほとんどのようです。ご家庭での手洗いや咳エチケットがより大切になっています。

学校を休まず元気にいることは、とてもいいことですが、少しでも具合の悪いときには、休んで自宅療養することが大切です。学校での感染拡大が起こると、今度は子供から成人への流行拡大となる可能性があります。インフルエンザの時期でもそうでしたが、熱があっても元気だからとか咳があっても熱がないから学校へ行かせることは、思いとどまりましょう。小児では呼吸器感染症が多く、COVID-19 ばかりでなく、季節の変わり目には、かぜをひくお子様も多くなります。帰国者・接触者センターへのご相談の際、お子様の行動歴のほか、保護者の方の行動歴をまとめておくと、ご相談が円滑に進むと思われます。県内では、濃厚接触者の他には、首都圏や愛知、大阪などの流行の多い地域での活動後に、感染する例が認められました。小児科をはじめとする医療機関にかかる際には、必ず電話や WEB 予約などを通して来院するタイミングをご相談ください。

こどもが体調不良で自宅療養をすると保護者が看病のために仕事を休むことも増えると思います。皆勤賞を美德とする風潮は COVID-19 流行中にはご法度です。保護者の中には「そんな簡単に休んだら新型コロナと思われるのではないか？」と差別を恐れる風潮もすでに出ています。COVID-19 は誰でも感染しうる感染症であり、みんなのために家で休むことを肯定的に受け止めお互いに助け合えるように保護者や勤務先の管理者に発信する必要があります。医師からの発信こそ説得力があります。校医、園医、産業医をしている方は積極的に働きかけましょう。

本来受けるべき予防接種の時期を逃さないように、母子手帳を見直してみてください。小学校高学年の DT2 期、日本脳炎の接種し忘れが特に多いので、注意してください。これらは同時接種も可能です。

静岡県は、拡大地域である東京と愛知、大阪に挟まれており、県内の発生例は持ち込み＋家族内感染がほとんどです。保健所の多大なご尽力によりクラスターは把握できています。しかし、いつでも感染拡大地域になり、発生状況によっては再度休校になることが予想されます。今は学校に行けるチャンスです。体調不良時は Stay Home(おうちにいてね)、手指衛生、咳エチケットの徹底、3 密回避、大規模イベント参加自粛をしながら学校生活を維持できるように一緒に頑張りましょう。